

2025 年 4 月 1 日
株式会社みずほフィナンシャルグループ

2025 年度新入社員への社長メッセージについて

株式会社みずほフィナンシャルグループは、本日 2025 年 4 月 1 日、丸の内本部ビルにてグループ 5 社^{※1} 合同入社式を執り行いました。

取締役 兼 執行役社長 グループ CEO 木原正裕の新入社員に向けたメッセージをご案内します。

本日、皆さんが〈みずほ〉の一員として社会人の第一歩を踏みだされたこと、心よりお祝い申し上げます。また、約 1,000 名の皆さん一人ひとりを、私たちの仲間としてお迎えできたことを大変嬉しく思います。

皆さんの前には、〈みずほ〉の広大なフィールドが、そして限りない可能性が広がっています。〈みずほ〉は、社員一人ひとりの挑戦と成長を全面的にサポートする基盤を用意しています。今日この瞬間から、私たちと共に、その歩みを踏み出していきます。

まず、〈みずほ〉が受け継いできたアイデンティティについてお話しします。

みずほフィナンシャルグループは、3 つの金融グループの合併により誕生しました。

そのひとつ、第一勧業銀行の源流である第一国立銀行は渋沢栄一により創設されました。「日本の資本主義の父」とも呼ばれている渋沢栄一は、「共存共栄」、つまり人々が共に助け合い、共に生き、共に繁栄することを重視し、数多くの資本家と協働しながら適材適所の人材登用を進め、殖産興業に多大なる貢献を残しました。

富士銀行の源流である安田銀行を創設したのが安田善次郎です。金融業を中心に多岐にわたる事業を展開した安田は、のちに「銀行王」として称えられますが、医療や教育などの社会事業にも積極的に支援し、近代日本の発展に大きな役割を果たしました。

そして近代工業勃興期の旺盛な資金需要に応えるために 1902 年に設立されたのが日本興業銀行です。第六代総裁の結城豊太郎は、中堅中小企業の育成、なかでも地方経済の多様化や安定化に心血を注ぎました。

まさに、様々な人々と積極的に関わりながら、日本の近代化に貢献してきた「共創」の精神こそが、〈みずほ〉の起源であり、アイデンティティでもあります。

私たちは、このアイデンティティを企業理念として確かに受け継いでいます。

〈みずほ〉のパーパスをご存じでしょうか。「ともに挑む。ともに実る。」です。

先人たちから受け継いできたアイデンティティに立ち返り、そして未来に向かって〈みずほ〉がどんな存在でありたいか、そこで果たすべき役割や存在意義はなにか。それを定義したのが〈みずほ〉のパーパス「ともに挑む。ともに実る。」です。

世界はまさに激動の時代にあり、サステナブルな社会の実現に向けて大きな課題を抱えています。なかでも日本は数多くの問題に直面しています。

日本はかつてグローバルな競争力で世界1位でした。それが今や38位です*2。世界の製造業に占める付加価値割合は年々下降する傍ら、GDPに占める政府債務の割合は年々増加、人口減少が続く2050年には1億人を下回るという予測もあります。

一方で、日本経済に明るい兆しも見えてきています。30年間続いた長いデフレから漸く脱却し、成長と分配の好循環が定着しつつあります。実際に、数多くの日本企業は、生産性の向上や、強みがある領域での事業成長に向けた投資を拡大し、日本の存在感を取り戻すべく日々挑戦を続けています。3年連続での賃上げもその証左でしょう。

また、民間だけではなく、政も官も、複雑に絡み合う地政学バランスの中で、国際社会における日本の存在感発揮に尽力しています。

〈みずほ〉は、お客さまの挑戦を支えると同時に、自らも挑戦する。さらには、政も官も含め、様々なステークホルダーをつなぎ、大きなうねりを生み出すことで新たな価値を共創し、そして社会に豊かな実りを提供していく。これこそが〈みずほ〉のパーパスであり、今ここで、皆さん一人ひとりの胸にしっかりと刻み込んでもらいたいと思います。

次に、パーパスを実現していくための戦略の明確化についてお話しします。

「ともに挑む。ともに実る。」を実践していくことでどのような未来を創造していきたいか、〈みずほ〉の歴史や先人たちから受け継いだDNAも踏まえつつ未来に向かって発揮する強みは何か、この二軸でビジネスの注力テーマを5つ明確化しました。

1つ目は、顧客利便性の徹底追求です。デジタル、コンタクトセンター、店頭、それぞれのお客さまとの接点は、お客さまの目線にたって利便性を高めていくことが不可欠です。デジタルが当たり前の世界で育った皆さんの忌憚のない声を積極的に発信してもらいたいと思います。

2つ目は、国内の資産形成・資産運用。そして3つ目が日本企業の競争力強化です。日本が再びグローバルな競争力を高め、世界に存在感を示していくためには、国力の底上げは欠かせません。〈みずほ〉としても、中堅中小企業の成長支援、事業承継支援、イノベーション企業の育成等に力点を置きながら、取組みを深めています。

4つ目はグローバルな投資銀行ビジネスです。1年前に買収した米国 M&A ブティックファーム、グリーンヒル。これが起爆剤となり、日系企業はもちろん数多くの非日系企業にも様々な成長機会を提供しています。

そして5つ目がサステナビリティ。気候変動対応や格差是正といった持続可能な社会実現に向けた様々な取り組みです。〈みずほ〉は、宇宙開発、バイオ、AI等、新しい技術領域への投資も推進しています。

これら5つの注力ビジネステーマは、それぞれ単独に存在するものではなく、相互に関連させていくことで、〈みずほ〉の強みが発揮されていくものと考えています。それぞれの強みに磨きをかけ、そして繋ぎ合わせていくことで、〈みずほ〉の独自の強みへと昇華させていきたいと考えています。

また、ビジネスの推進を支えているのが、IT システム、事務、コンプライアンス、リスク管理、そして人事といった経営基盤であり、これらの機能強化なくしては安定的な業務運営は果たせません。

今日、この場にはRT で採用された方もいらっしゃいますが、来年に向けてRT と銀行の統合に関する議論が進んでいます。

IT とコンサルは、いずれもビジネスを創出するうえで欠かせないピースであり、〈みずほ〉のグループ力強化の根源でもあります。コンサルは、あらゆるビジネスにおいてバリューチェーンの起点となる機能です。そして、IT は、ビジネスと一体不可分の存在であり、デジタルソリューションの提供等、顧客利便性の高度化、生産性の向上等、ありとあらゆる場面で欠かせない機能です。RT の皆さんには、専門性を高め、そして存分に存在感を発揮いただくことを期待しています。

新入社員の皆さんは、今、緊張と不安で一杯だと思います。

フェアでオープンなのが〈みずほ〉のカルチャーです。

私自身、約3年前にグループCEO に就任して以降、このフェアでオープンなカルチャーの醸成にまさに心血を注いできました。そして、グループ全体に、着実に浸透してきていると実感しています。

若い人でも怯むことなく意見を述べて挑戦できるのが〈みずほ〉の良さであり、それが将来の〈みずほ〉の競争力の源泉にも繋がっていくと確信しています。

AI 活用、DX 推進、異業種との連携といった領域では、寧ろ若い人達の方が想像力豊かにビジネスの革新を図れるとも言えます。

この広いフィールドのなかで、大きな志をもち縦横無尽に活躍されることを期待しています。「ともに」、頑張りましょう。

※1 株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社みずほ銀行、みずほ信託株式会社
みずほ証券株式会社、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

※2 出所：IMD「世界競争力年間2024」

以上